

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

みんなで乗ろう！乗って次世代へつなげよう！  
快適で円滑な公共交通ネットワークづくり

【地域の特性】

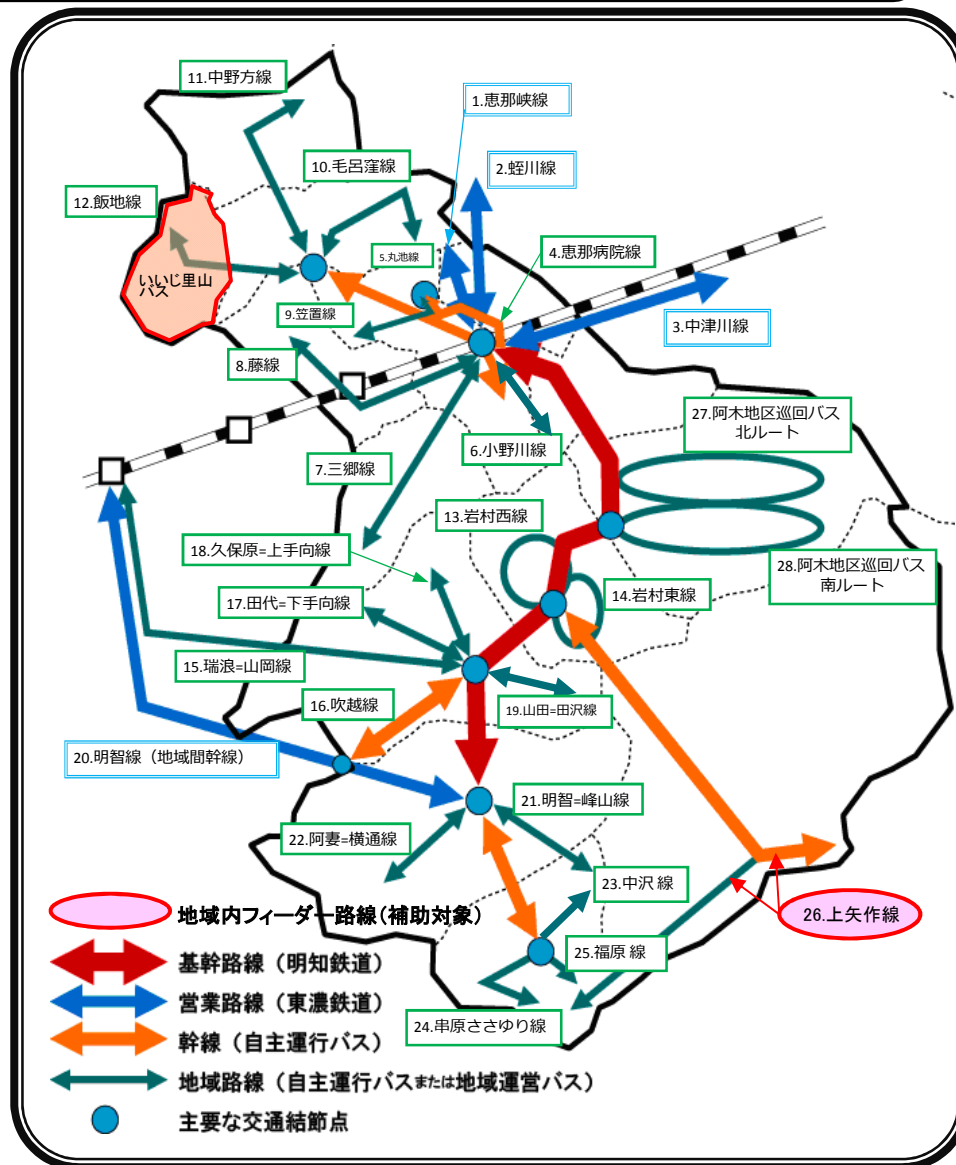
- ・ 恵那市・中津川市は、山間地が多くを占める岐阜県東濃地域に位置している。
- ・ 恵那市の人口は49,703人（H29.10.1現在）、中津川市阿木地域の人口は2,277人（H29.4.1現在）

【明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画】

期間 平成26～30年度

基本方針

- ① 明知鉄道の基幹路線としての機能強化と新たな魅力の創出
- ② 基幹路線とその支線となる交通機関との連携強化
- ③ 公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化
- ④ 公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化
- ⑤ 地域公共交通運営組織間の連携強化



## 地域公共交通網形成計画における目標

項目	H30目標値	H28実績
明知鉄道の年間利用者数	50万人	38万126人
自主運行バス利用者アンケートで、満足・やや満足と回答した利用者の割合	80%	<b>94.6%</b>
自主運行バス利用者アンケートで、最低保障の対象となっている施設 <sup>(注1)</sup> への、公共交通でのアクセス方法を理解している人の割合	80%	78.6%

## 明知鉄道沿線における公共交通整備の達成状況(抜粋)

項目	H30目標値	H28実績値	備考
定期外利用者	19.5万人	16.8万人	
自主運行バスの運営に係る経費	137百万円	156百万円	H29実績
検討会を行った地区数	5地区	<b>5地区</b>	H26～H28 累計
年間観光客数	415万人	384万人	

## 生活交通確保維持改善計画に係る目標と達成状況(上矢作線:フィーダー補助対象)

項目	H30目標値	H28	H29	評価
利用状況	高校生の利用率を前年以上とする(通学定期購入者数÷上矢作町の16歳～18歳の人口)	29.5%	<b>36.9%</b>	A
	高齢者の利用率を前年以上とする(8時～16時の利用人数÷上矢作町の65歳以上の人口)	66.0%	<b>69.0%</b>	A
利用満足度	バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする	88.9%	<b>94.6%</b>	A
バスとの乗継	明知鉄道岩村駅での乗り継ぎ客数を前年以上とする	20人	<b>20人</b>	A

(注1) 最低保障の対象となっている施設…主要医療機関(恵那病院、上矢作病院、東濃厚生病院、岩村診療所、山岡診療所、阿木診療所等)・主要商業施設(恵那市街地、バロー岩村店周辺、明智駅周辺、瑞浪市街地)

○利用促進活動 3K (①高齢者・②高校生・③観光客) サポート

①公共交通利用促進の呼びかけ (新規：6回開催：344人)

①孫とおでかけふれあい列車の運行 (新規：43日間：522人推計)

②夏休み割引きっぷによる支援 (H28：176人→H29：325人)

③岩村女城主ものがたり列車の運行 (新規：24日間：166人)

共通：公共交通シンポジウムを開催 (230人参加)

共通：CATVで公共交通の利用促進番組を放映

共通：公共交通マップを作成

○いいじ里山バスが運行 (公共交通空白地有償運送)

飯地線 (通学利用分を除く)：252人→いいじ里山バス：1,679人)

○上矢作線と明鉄接続の改善及び利用促進 (補助)

高校生の利用のため中学3年生に啓発活動と乗継の調整



暮らしに役立つ公共交通を考える会(地域検討会)の開催

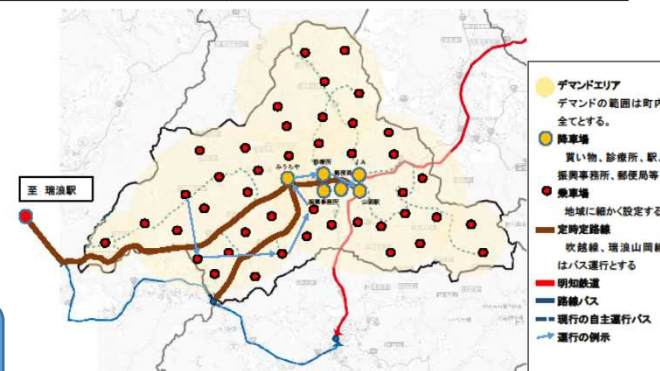
地域路線のあり方検討委員会が路線再編を検討

- ・岩村・山岡各地域で住民による路線の検討委員会が発足。H30.10再編に向け検討中
- ・検討会 山岡町：6回開催 岩村町：5回開催
- ・再編案は、定時定路線+デマンド運行
- ・定時定路→観光、通学を対象
- ・デマンド→病院、買い物など町内移動を対象

ひとり世帯、高齢者を中心として、誰もが安心して利用できることに重点を置く。

山岡町地域路線のイメージ図

山岡町地域路線のあり方 (コンセプト)  
 山岡町内の移動手段を確保するため、特に交通弱者の高齢者に光を当てた路線とする。  
 地域路線は、幹線と地域路線の一部を定時定路として残しながら、その他の路線をミーティングポイントによるデマンド方式とする。  
 ①瑞浪山岡線、吹越線を残し、明知鉄道、路線バス、JR中央線に乗り継ぐ  
 ②地域内移動は、交通弱者が利用できるような環境を整える



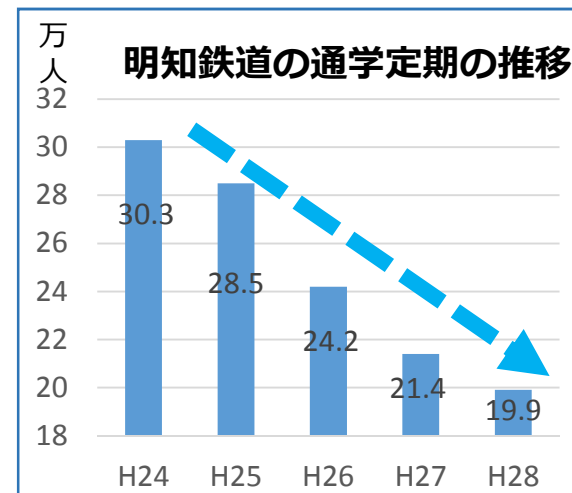
平成30年1月10日開催

◆ 明知鉄道の年間利用者数（平成30年度目標：50万人）

年度	H26年度	H27年度	H28年度
利用者数	422,263人	402,133人	380,126人

【目標達成状況についての考察】

企画列車（観光客サポート）や利用呼びかけ（高齢者サポート）、企業訪問などを行うも、通学利用者の減少により、利用者数が減少している。私立高校のスクール便によるところが大きい。



◆ 生活交通確保維持改善計画に係る目標と達成状況（上矢作線）

項目	目標	H27	H28	H29	状況
利用状況	高校生の利用率を前年以上とする (通学定期購入者数÷上矢作町の16歳～18歳の人口)	27.9%	29.5%	36.9%	達成
	高齢者の利用率を前年以上とする (8時～16時の利用人数÷上矢作町の65歳以上の人口)	60.3%	66.0%	69.0%	達成
利用満足度	バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする	90.9%	88.9%	94.6%	達成
バスとの乗継	明知鉄道岩村駅での乗継ぎ客数を前年以上とする	20人	20人	20人	達成

【目標達成状況についての考察】

明知鉄道岩村駅で明知鉄道と上矢作線の乗り継ぎ改善や、上矢作中学3年生に対し高校通学時の上矢作線利用をPR（高校生サポート）した結果、利用率・満足度が上がった。

※集計期間は次のとおり ①明知鉄道 H28.4～H29.3 ②バス H28.10～H29.9

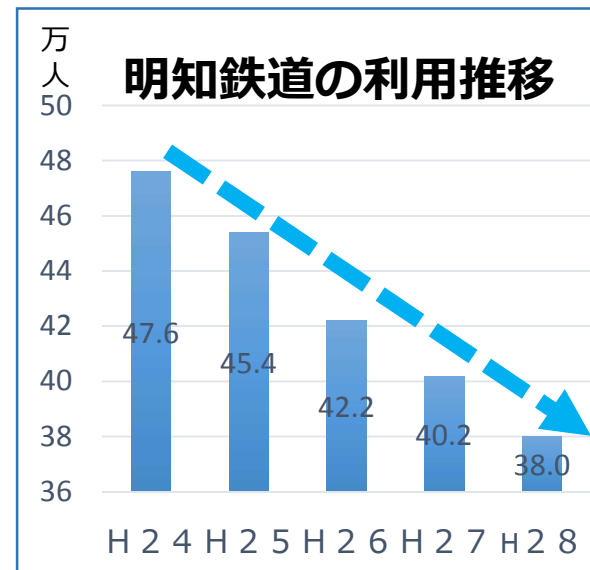
【課題】

- ①明知鉄道 : 利用促進を行うも、年間40万人を割り込む
- ②地域間幹線 : 利用者は増加するも、平均乗車密度が5人以下 (明智線)
- ③自主運行バス : 運営に係る経費の増大
- ④共 通 : 公共交通を「育てる」ため地域住民の参画意識の醸成



【対応方針】

- ①「観光利用」を拡大する
  - ・NHK連続ドラマ「半分、青い。」を活かした列車を運行
  - ・孫とおでかけふれあい列車を運行
- ②地域間幹線 (東濃鉄道明智線)
  - ・吹越バス停で自主運行バスとの乗り継ぎを改善
- ③明知鉄道を軸としたバスとのネットワークの改善
  - ・地域路線を再編 (岩村東西線・山岡各線・串原各線)
  - ・バス車両の更新とPR (上矢作線)
- ④「生活利用」を拡大する
  - ・公共交通の乗り方教室を開催
  - ・乗り換え案内等によるPR
  - ・沿線地域の企業へ訪問し、公共交通機関の利用をPR



東濃鉄道明智線の状況

年 度	H28	H29
輸送人員	113,719人	117,720人
平均乗車密度	2.8人	3.6人
平均運行回数 (1日当たり)	14.9回	14.6回
輸送量 (1日当たり)	41.1人	52.5人

平成31年度実施に向け、平成30年度中に**第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画を策定**

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

## 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Kサポートに重点的に取り組んでいるのであれば、3Kサポートに対する評価や課題、対応方向で整理した方がわかりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、利用促進を重点的に行い、3Kサポートと新規の利用促進活動をまとめて表示</li> </ul>	<p>地域住民の利用が減少していることから、利用促進のPRを行うことで住民意識の高揚等を図りたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手のわかりやすさに配慮して資料整理してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価委員会資料を基に、実績数字を入れるなどイメージ出来るように表現を工夫</li> </ul>	<p>そして、PDCAを回すことが出来るよう、自己評価及び第三者評価委員会にてチェックできるような資料整理を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価において、数値が満足すればOKというわけではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォローアップ調査において、利用者の声を聞き取るとともに、利用者の動向等についてバス運転手にヒアリングを行った。</li> </ul>	<p>第三者評価委員会での評価をアクションにつなげるためにも、明知鉄道を基幹路線とする恵那市、中津川市阿木地区の交通ネットワークをより充実する第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画を策定する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯地地区の公共交通空白地有償運送について、取り組み過程での課題や新たに抽出した課題など、他地区で参考となる整理を行っていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯地地区の「いいじ里山バス」の視察時に、運行の立ち上げや取り組み過程などの課題について説明を行った。</li> </ul>	



## 「孫とおでかけふれあい列車」の運行

【目的】 高齢者と子どもに触れ合いの場、語り合いの場を提供することで、明知鉄道への利用促進につなげる。（鉄道を通じた世代間交流）

【ねらい】 高齢者の乗車への動機付けと、乗車に対するハードルを低くする

### 【運行概要】

- 期間 夏休み期間（平成29年7月20日～8月31日）
- 対象 祖父母と乗車した子ども（壮健クラブ員：7,100人）
- 内容 ①硬券型の乗車証明書をプレゼント  
②写真撮影用のこども制服の貸し出し等

### 【取り巻く環境】

- ・ 明知鉄道利用数の減少（H28年実績：40万人を割り込む）
- ・ 高齢者の公共交通の利用が疎遠

### 【運行までの経緯】

- ・ H29年2月3日 公共交通シンポジウム「みんなで乗ろうよ！公共交通」を開催  
230人が参加し、公共交通の存続の危機感と早期から公共交通に慣れる必要性を共有
- ・ H29年5月 沿線の壮健（老人）クラブへ出向き、公共交通の利用をお願い

### 【事業効果】

- 利用者 推計：522人（証明書配付数：261人＋付き添い1人を想定）

### 明知鉄道が子どもらにプレゼント



### 制服姿で切符切り体験も

明知鉄道（岐阜市明知町）は、夏休み企画として、祖父母と乗車した3歳以下の乗客を対象に、昔懐かしい硬券型の記念乗車証明書をプレゼントしている。硬券型は、乗車券と切符を別々に発行する形式で、乗車券は硬券型で、切符は紙製の硬券型で発行される。硬券型は、乗車券と切符を別々に発行する形式で、乗車券は硬券型で、切符は紙製の硬券型で発行される。

### 夏の思い出、硬券乗車証

（H29.7.22 岐阜新聞）

21日には、明智駅で、お年寄りの姿が見られ、101。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月10日

協議会名: 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション(株)	(1)上矢作線 (大野-押山-岩村駅前)	前回の事業評価における改善点を踏まえて、次の事業を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	<p>【定量目標】 ○高校生の利用率を前年以上とする。 高校生の定期券購入割合前年(H28)29.5%に対して、本年(H29)36.9%と増加した。 スクールバスのある私立高校への進学率は25.5%から21.7%と減少した。 ○高齢者の利用率を前年以上とする。 高齢者人口のバス利用者数割合前年(H28)66.0%に対して、本年(H29)69.0%と微増している。 ○バス利用者アンケートの満足度を前年以上とする。 前年(H28)88.9%に対して、本年(H29)94.6%と増加した。 ○明知鉄道岩村駅での乗り継ぎ客数を前年以上とする。 岩村駅での乗り継ぎ客数は前年(H28)20人/日に対して、本年(H29)20人/日と同じ水準であった。</p> <p>高齢者人口の内、バス利用者数割合を前年以上の目標とする。 引き続き利用者割合が増加するよう乗換案内等PRIに努める。</p> <p>地域での検討意見等ダイヤの見直しや運行形態の検討改善に努め、バス利用者アンケートの満足度を前年以上の目標とする。</p> <p>上矢作線については、上記取り組みを引き続き行いつつ、地域へのPR、また新規車両の出発式を開催し、地域の公共交通に対する意識を高め、さらなる利用促進を図る。</p>
平和コーポレーション(株)	(2)上矢作線 (横道車庫-道の駅-岩村駅前)	壮健クラブ役員会、及び総会で、公共交通の利用をお願い。小中学校、こども園、壮健クラブと連携し、孫とお出かけふれあい列車を運行。明知鉄道と接続するダイヤの見直し地域公共交通マップの作成。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(3)上矢作線 (押山-横道車庫-岩村駅前)	ケーブルTVで公共交通の乗り方を放送。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(4)上矢作線 (大野-上矢作振興事務所前-岩村駅前)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(5)上矢作線 (大野-横道車庫-岩村駅前)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(6)上矢作線 (横道車庫-道の駅-パロー岩村店)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(7)上矢作線 (大野-押山-パロー岩村店)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	
平和コーポレーション(株)	(8)上矢作線 (押山-横道車庫-パロー岩村店)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月10日

協議会名:	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	基本目標:みんなで乗ろう!乗って次世代につなげよう!快適で円滑な公共交通ネットワーク 基本方針:明知鉄道と4つの連携 (1)明知鉄道の基本路線としての機能強化と新たな魅力の創出 (2)期間路線とその支線となる交通機関との連携強化 (3)公共交通を未来に「つなぐ」ため地域住民との連携強化 (4)公共交通とまちづくり・観光振興との連携強化 (5)地域公共交通運営組織間の連携強化